院長コラム

一緒に考えましょう
健康のこと
医療のこと
56

がん治療と仕事

市民病院
院長　神谷里明

現在、一生のうちがんになる人は男性で2人に1人、女性で3人に1人と言われています。早期発見と手術や薬、放射線などの治療法の進歩により、がんになっても社会復帰する方が増えています（約6割の方が治癒しています）。その治療の過程では生活、働き方に一部制限がかかることがありますが、また普通の生活に戻れることも多くなっています。

がんになったとわかった時に治療に専念したいとか、仕事は続けられないだろう等考えて、仕事を辞めてしまう方がいます。しかし、今のがんの治療には費用がかかりますし、治療が終わったあとの生活のことも考えなければなりません。がんになったら終わりではないのです。治療を行いながら働くことも可能です。ただし制限が必要なこともありますので担当医師、看護師からよく話を聞いてください。どのような治療が必要なのか、期間はどのくらいなのか、入院が必要なのか外来通院で行うのか、どのような影響が体に及ぶのか、日常生活への制限はどのようなことがあるのか、また費用はどれくらいかかるのか理解していただく必要があります。

病院には相談する部署もあります。また仕事の内容やどのような勤務形態が可能かなど、会社の産業医に手紙を書いて相談することもできます。医師・看護師・薬剤師などの医療者、会社の上司や産業医とともに、仕事を辞めずに治療を続けていく方法を一緒に考えましょう。大きな会社には産業医は義務づけられていますが、中小企業にはいない場合もあります。そのような場合はがん診療連携拠点病院や、愛知県産業保険総合支援センターの相談窓口が利用できます。

がんの種類、進み具合により治療法、治療期間は大きく異なります。数日で終わる場合もあれば数カ月、場合によっては数年間治療が続くこともあります。治療を継続するためにも仕事をどう続けるのか最初に考えなければなりません。がんと診断された時は仕事を辞める前に相談しましょう。